

報道関係者 各位

2013年7月22日

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭 “映画祭から映画館へ” 坂下雄一郎監督 『神奈川芸術大学映像学科研究室』 SKIPシティDシネマプロジェクト第4弾作品に決定!!

若手映像クリエイターの育成のための支援事業として、2011年よりスタートしたSKIPシティ 彩の国ビジュアルプラザが推進する「SKIPシティDシネマプロジェクト」の第4弾作品に、坂下雄一郎監督作品『神奈川芸術大学映像学科研究室』が選ばれました。同作は、21日に閉幕した「SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2013」で、審査員特別賞を受賞した作品でもあります。

▶【SKIPシティDシネマプロジェクト（公式HP：<http://s-dp.com/>）】とは…

SKIPシティ 彩の国ビジュアルプラザが推進する若手映像クリエイター育成のための上映支援事業。“映画祭から映画館へ”を掲げて、IDCFにエントリーされた良質な作品を、より多くの方に鑑賞していただけるよう、劇場公開を支援するプロジェクト。昨年は、SKIPシティアワードとともに、日本人監督初の監督賞受賞という快挙を成し遂げた、中野量太監督『チ子を撮りに』が第3弾作品として選ばれ、ベルリン国際映画祭をはじめとする国内外の映画祭で賞賛され、現在も順次全国劇場公開中です。また、世界的なセールス会社“フォルティッシモ・フィルムズ”が国際販売権を取得するなど、海外からも注目されています。

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2013で「審査員特別賞」を受賞した20代の若手監督の話題作

SKIPシティDシネマプロジェクト第4弾作品は、「SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2013」の長編コンペティション部門で、緻密な人間ドラマを、ミニマムな世界観の中で見事に表現しているとして「審査員特別賞」受賞も果たした『神奈川芸術大学映像学科研究室』に決定しました。現代日本社会の縮図を描き出し、笑いのツボを心得た演出は、とても新人監督とは思えないほどであり、同プロジェクトにより、全国劇場公開が決定いたしました。

『神奈川芸術大学映像学科研究室』 <2013年/日本/70分>

この大学で起こった小さな出来事は、現代日本の縮図かもしれない。

神奈川芸術大学映像学科で助手として勤務する奥田はある晩、学生が大学の機材を盗み出している現場に遭遇する。事件の発覚を恐れた映像学科の教師陣は、事実を大学側に隠蔽するよう奥田に命令する。

- 監督・脚本：坂下 雄一郎
- 出演：飯田 芳、笠原 千尋、前野 朋哉



■監督：坂下 雄一郎（さかした・ゆういちろう）

<プロフィール>



1986年生まれ、広島県出身。大阪芸術大学卒業後、東京芸術大学大学院映像研究科に入学。在学中から学外の作品に助監督として参加。2011年に監督した『ビートルズ』はゆうばり国際ファンタスティック映画祭2012にて北海道知事賞を受賞。他に『猿蓑家はつらいよ』（オムニバス映画『らくごえいが』（2013）の一編）。

<坂下 雄一郎監督のコメント>

この作品は、大学の研究室を舞台にした内幕ものとして、知られざる舞台の話に興味を持ってもらえればと思い、個人的には、自分と同世代の20代後半の働いている人たちに向けて制作しました。もちろん広い年代の方々にもたくさんご覧いただこうと、最終的に劇場での公開を狙っていたので、こんなに早く実現してしまうのかと驚いています。

“映画祭から映画館へ”を合言葉に、「SKIPシティDシネマプロジェクト」は、良質な作品をより多くの方に鑑賞していただけるよう劇場公開を支援するプロジェクトです。映画祭の新しいカタチを模索しつつ、これからも力強く進んでまいります！

～ 本件及びご取材・画像素材ご提供に関するお問い合わせ窓口 ～

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭事務局 広報担当：松永（E-mail: matsunaga@skipcity-dcf.jp）
埼玉県川口市上青木3-12-63・5F 電話：048-263-0818 FAX：048-262-5635 携帯：070-6523-0261

全国順次劇場公開予定